



いま、鴨川に求められるリーダーは、  
市民の思いに誠実に耳を傾ける人。  
市民ファーストの施策を実行する人。  
市の歩むべき姿を示してくれる人。  
未曾有のコロナ禍で、その重要性がますます高まっています。

鴨川に生まれ育った長谷川たかおさんは、  
誰よりも鴨川が好き。明るい未来を描ける。行政経験も豊富。  
何よりもこの3年半、  
地元で頑張る多くの仲間と語り合っています。

とどけ! 民意の会では、  
次代のリーダーにふさわしい長谷川たかおさんを応援し、  
一緒に「鴨川新生」のまちづくりを考え、実行していきます。  
鴨川の新しい扉を開きます。  
ご期待ください。

とどけ! 民意の会 代表 相原 一彦  
幹事長 小原 好一

# 鴨川新生

活力あふれる「健やか交流」鴨川へ

### 「鴨川新生」とは?

#### 新しい鴨川誕生の合言葉

現状や過去を否定するだけでなく、  
謙虚に見つめ、予測が難しいコロナ後の社会を見据えながら、  
希望に満ちた新しい鴨川を誕生させたい。  
その思いを込めた合言葉です。  
特定の人が市政の恩恵を受けるのではなく、  
市民誰もが物心両面の「豊かさ」を実感できる鴨川を。  
この実現には、私心を捨て、覚悟を持って  
市政に邁進するリーダーが必要です。

### 長谷川たかおプロフィール

昭和23年12月9日生まれ A型(栗斗・農家の長男坊)  
家族 妻(一男一女)

- 学歴 千葉県立長狭高等学校 卒業(第19回卒)  
玉川大学文学部 卒業
- 職歴 鋸南町立佐久間小学校校長  
千葉県教育庁 参事兼教育総務課長  
鴨川市教育委員会 教育長  
鴨川市長(1期)
- 役職歴 中央教育審議会初等中等教育分科会 WG委員  
大学設置・学校法人審議会 専門委員  
千葉県立高等学校入学試験改善協議会 会長  
千葉大学教育学部大学院 非常勤講師  
千葉県立長狭高等学校同窓会長
- 趣味 草刈り、読書、スポーツ
- 好きな言葉 「我以外皆我師」(吉川英治)  
「信無くんば立たず」(孔子)

前鴨川市長

# 長谷川たかお

とどけ! 民意の会は次の意見を発表しました。 [討議資料](#)

「市民が主役のまち」鴨川へ



インタビュー

Interview

前鴨川市長

# 長谷川たかお

## コロナ禍 コロナ後の まちづくり

新型コロナウイルス感染症が世界で猛威を振るい、日本国内においては4月7日に「緊急事態宣言」が一部地域に発令され、17日には全都道府県に拡大しました。収束の見込みはいまだ立っておりません。今のところ、このウイルスと共存していくしかありませんが、このような状況の中、どのような「まちづくり」を考えているのか伺いました。

**Q** | 鴨川も未曾有のコロナ禍の中にありますが、この現状をどうとらえていますか。

**A** | 長谷川  
新型コロナウイルスの感染拡大は、当初予想していたより深刻で、人の移動や交流が制限されたことにより、観光をはじめ鴨川の産業にも大きな打撃を与えました。また、医療や介護に従事している皆さんは献身的にその任務を全うしようと加重負担になっています。この未曾有の難局には市をあげて取り組まなければなりません。

**Q** | 具体的にはどのような対応が必要と考えていますか。

**A** | 長谷川  
市民はコロナ禍のなかで、生活様式や行動様式が大きく変わりました。仕事や生活の面で不安に思っていることや困っていることが多くあります。市はコロナ禍が収束するまで、これらの方々に対して親身になってともに考えていかなければなりません。生活の安定のため、産業の振興に資する効果的な対策もスピーディに実行していかなければなりません。また、これらの変化はコロナ収束後も拡大すると考えられます。この事態に的確に対処するには市役所職員、議員や市民の皆様のご自由闊達な議論のもと具体的な施策を実行していく必要があります。



インタビューを受ける長谷川さん



土曜スクールの子どもたち



鴨川漁港の水揚げ風景



前原横渚海岸の清掃



地元粟斗で収穫のお手伝い

**Q** | 私たちの暮らしを守り、さらに向上させるために、どんなことに取り組むことが必要ですか。

**A** | 長谷川  
コロナ禍、コロナ後の社会では、休暇を楽しみながらテレワークもこなす働き方が増えていくでしょう。企業は多様な働き方を広げることによって前向きになっていきます。そこで、こうした働き方を仲介する会社と市がタイアップし、移住や2拠点居住を決定するための必要な情報(ワークスペース、余暇の過ごし方、子育て環境、創業支援等)をセットで提供していくことが必要でしょう。

観光においては、近場でゆったりと過ごす「マイクロツーリズム」が注目されています。高速道路から鴨川までの道路整備など首都圏からの集客を意図した対策をしていかなければなりません。また、前原横渚海岸を核とした海辺の魅力づくりも推進する必要があります。

消費行動にも変化が見られます。ネットショッピングが急激に拡大しています。鴨川の農産物や海産物の販路拡大に結びつくように市が支援していく必要があります。コロナ禍で疲弊した産業の支援強化が求められています。

**Q** | 長谷川さんは18の実行ビジョンを公表しました。次号で説明してください。最後に一言、お願いします。

**A** | 長谷川  
コロナ禍により、私たちの生活は一変しました。多くの制約の中で、コロナが一刻も早く収束することを願っています。しかし、働き方や余暇の過ごし方、隣人や職場の人とのコミュニケーションの取り方は、コロナ収束後も今の流れを加速することでしょう。それならば、この流れを冷静に分析して、私たちの生活をよりよくする手立てを考えていかなければならないと思います。私は市民目線で考え、行動していきます。

編集  
後記

久しぶりの発行となりました。私たち民意の会は鴨川市民の声を行政に届かせるため色々な活動を行って参りました。今回、「あなたが主役のまちづくり」としてテーマを決め、長谷川たかおさんへのインタビューを掲載しました。本市において色々な問題が山積しております。市民の皆様とともに夢と希望を持てるまちづくりを考えていきたいと思っております。是非とも、皆様方の幅広い意見をお待ちしております。また、会員も随時募集しておりますので、一緒に活動して下さる方は「とどけ! 民意の会」までご連絡ください。

ホームページ



www.thasegawa.net

長谷川さんの「鴨川への思い」をSNS発信します。是非ご覧ください。

フェイスブック



ご意見・  
ご要望は

# とどけ! 民意の会へ

〒296-0004  
千葉県鴨川市貝渚342-4  
TEL: 04-7096-6077  
FAX: 04-7096-6078